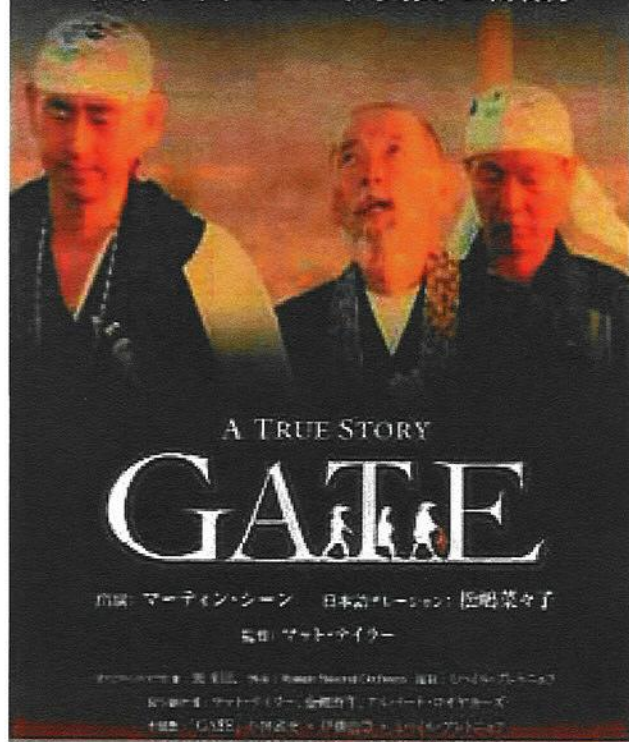


世界に伝えたい、真実の物語。



禅僧25日間の記録に共感

原爆の火 上映の輪

広島原爆投下直後から燃え続ける「原爆の火」を、世界初の原爆実験が行われた米ニューメキシコ州の核実験場に戻し、悲劇の始まりの地で終わらせようとする日本の禅僧を追う映画「GATE」のII写真。核廃絶を願うドキュメンタリーが20日、四日市市の若者らの手で上映される。

(中川史)

四日市の若者ら20日に鑑賞会

映画は世界核兵器解体基金が制作し、日本生まれで広島近郊で育った米国人マット・テイラーさんが監督をした。旅は2005年、60年前に初の核実験があった7月16日に始まり、25日間の行脚の末、長崎に投下された8月9日に核実験場トリニティサイトへ到達。火を消し、「生まれた地に返して因果の輪、負の連鎖を閉じる」までを描いた。上映時間104分。

配給会社がなく、ほとんどが自主上映。鑑賞機会に恵まれないのを知った四日市市の飲食店グループ会社統括マネジャー富田豊さん(35)が「それなら店で上映しよう」と決めた。社員やアルバイト店員ら若いスタッフが手伝い、話を聞いた客もPRに歩いている。

上映場所はダーツバー「LEA、LEA」(同市諏訪栄町7)。午後2時と同6時から上映し、核の問題を考えてもらう。1回の定員は最大70人。鑑賞料は飲み物付きで1人1200円、中高生500円。問い合わせは同店へ電話(059・356・5444)か、メール(Dealer@boss-create.com)を。

夏至の21日、電気を消す全国イベント「100万人のキャンドルナイト」に合わせ、上映場所が福岡県八女市で燃え続けている「原爆の火」をろうそくにともし、平和について考える。